

◎聖書朗読 使徒の働き6章7,8章4節

6:7 前半 こうして、神のことばはますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。

8:4 散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

1. 教会の成長・拡大

使徒の働きは、初代教会の歴史です。古い聖書の、文語訳聖書の「使徒行伝」、これが中国語の書名です。まさに「聖霊に満たされた使徒たちが生き生きと活動した信仰生活の歩みが記されています。それを読むと、教会が目覚ましい勢いで成長したことがわかります。

主イエスは、天に上られる前に、エルサレムにとどまって聖霊が与えられるのを待つよう、弟子たちにお命じになりました。その時の弟子たちは、およそ120名でした。(使徒1:15)ところが、ペンテコステの日に聖霊が弟子たちに降られ、彼らが御霊に満たされて神のみことばを宣べ伝えた時、その日だけで、三千人がバプテスマを受けて、弟子たちの群れに加えられました。(使徒2:41)主は、毎日、主を信じて救われる人々を教会に加えて下さり、あまり日が経たないうちに、弟子の数が男性だけでも五千人になりました。(使徒4:4)使徒5:14には、「そして、主を信じる者たちはますます増え、男も女も大勢になった。」とあり、いま、お開きしました、使徒6:7には、「こうして、神のことばはますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。…」とあります。聖書はその具体的な数を記していません。

このような目覚ましい教会の成長、伝道の拡大は、どのようにして起こったのでしょうか。使徒の働きを読むと、ひとつのキーワードに要約された節がいくつもあることに気が付きます。それは、使徒の働きの随所にちりばめられている;「こうして…」という節です。5つあります。

- 1) 「こうして神のことばは、ますます広まって行き…」(使徒6:7)
- 2) 「こうして教会は、…聖霊に励まされて前進し続けた」(使徒9:31)
- 3) 「こうして、大ぜいの人々が主に導かれた。」(使徒11:24)
- 4) 「こうして諸教会は、その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。」(使徒16:5)
- 5) 「こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。」(使徒19:20)

どの節も「こうして」という言葉で始まっています。「こうして」とは、「どうして」なのでしょう。

それを理解すれば、初代教会の成長の秘訣、伝道の方策を見つけることができるのではないのでしょうか。

実は、この「こうして」の前に、初代教会は、幾多の問題・課題に直面するのです。

2. 教会は、問題・課題によって成長する 問題・課題を解決することによって成長する

まず第一は、教会は「問題・課題」によって成長するということです。

6:7 前半 こうして、神のことばはますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。

最初の「こうして」とある箇所は、使徒6章1-7節です。ここにある問題は、教会内のやもめたちへの食糧の配給に関してのものでした。当時の社会は、貧富の差が大きく、教会が、貧しい人々を助けていました。エルサレム教会では、豊かな人々たちがその財産を売り、その代金を教会にささげ、それが貧しい人々に分け与えられていたのです。(使徒4:34)

けれども、どんなに細やかな配慮をしても、人の集まる所には、何らかのトラブルが起こるものです。

ギリシャ語を話すユダヤ人から「ヘブル語のやもめたちには毎日配給があるのに、私たちには、配給がない日がある。」という苦情が出ました。この背景にはヘブル語を話す人々とギリシャ語を話す人々との間の不一致があったのです。

ギリシャ語を話すユダヤ人というのは、外国生まれのユダヤ人で、外国から、母国に帰ってきたのですが、まだヘブル語を話せないでいる人たちのことでした。この人たちは、ことばの壁もあり、いろいろな面で肩身の狭い思いをしていたのでしよう。

初代教会は、多言語、多文化の教会でした。それだけでもいろんなトラブルが起こる要素が多くあります。

けれども、教会は、そのことばの壁、文化の壁を乗り越えて一つとなって行かなければなりません。

愛する兄弟姉妹、けれども、これは海外の教会、初代教会だけの問題・課題でしょうか？ 私たちの心に他の人を思いやる心、受け入れる心、赦す心が少しずつ萎えて、失われていってはいないでしょうか。 「やもめたちへの配給」の問題には、教会の霊的な一致という大きな課題を含んでいましたが、神さまは、この問題を通して、教会に、さらに一致を与えようとされたのです。7 節に、「こうして、神のことはますます広まっていき」とあるように、教会は、この問題・課題によって、もっと正確に言うなら、この問題・課題を解決することによって成長して行ったのです。しかもどこか外からというのではなく、教会の中から、その解決の為に人材を選び、その任に当たるようにという方法を取ったのです。

教会は、問題・課題のないところではありません。けれども、教会は問題・課題を克服し、解決していくところです。そして、その教会の問題・課題が克服され、解決されていく時、神のみことばはさらに広がっていくのです。主の導きと助けによって、問題・課題の解決を求めて進むとき、主は私たちにすべきことを示してくださるのではないのでしょうか。

3. 聖言による成長 みことばを宣べ伝えての成長 8 章 4 節をご覧ください。

8:4 散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

この 8 章では、初代教会の問題は、いっそう深刻なものとなり、彼らは、さらに厳しい現実と直面させられます。サウロによるこの道の者たちへの情け容赦ない迫害です。あの執事の一人、御霊と知恵とに満ちた、恵みと信仰と力に満ちたステパノが、公衆の面前で生命を落としたのです。それはあまりにも突然の、受け入れられない事態でした。初代教会の人々の心の痛みと悲しみは、察するに余りあります。「主よ、なぜですか？」「主よ、どうしてですか？」

サウロの迫害は、さらに勢いを増し、激化します。クリスチャンたちは、非常な恐れと募る憂いの思いをもって、散り散りバラバラに散らされていきました。「主よ、いつまでですか？」「どこにおられるのですか？助けて下さらないのですか？」

愛する兄弟姉妹、彼らは散らされて何をしたのでしょうか？

もう一度 8:4 の後半を見てみましょう。「・・・みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。」

散らされた人々・初代教会の人々がしたこと。それはみことばを伝えたとのことでした。

ルカは、このことを 4 章 31 節では「神のことば」、5 章 20 節では「いのちのことば」、8 章 25 節では「主のことば」、そして 15 章 7 節では「福音のことば」と呼んで、使徒の働きの記述の中で、繰り返し強調しています。

人は、ほんとうの自由と救いを与える神の生けるみことばこそが、いつの時代にも、どのような状況においても、**教会が聞くべき、そして信じるべき、そして宣べ伝えるべき、教会の宣教の中心**なのです。

8:4 散らされた人々は・・・みことばを伝えながら巡り歩きました。

確かに、迫害者たちの目から見れば、エルサレムから散り散りばらばらに散らされていったのですが、けれども、その視点を聖霊の力による宣教の前進という所に置くとき、この「散らされた」という現実、主の御手によって遣わされていった派遣の旅路ということになります。

宣教の困難についての理由を挙げればきりがありません。もし「この状況では、宣教活動は難しい、自粛しよう」という時があるとするなら、それはいつでも、そのような時になるかもしれません。特に、彼らの置かれていた時は、まさに、そのような状況に、十分当てはまる時だったでしょう。

けれども、彼らは、この困難な迫害の時、追放と離散の時をそのようには捕らえませんでした。むしろ彼らは、散らされていくことを宣教の拡大と前進の時と受け止め、果敢に福音を宣べ伝えることにチャレンジしていったのです。

この初代教会の信仰者の生き生きとした姿には、時に、そのしたたかさやしぶとさにすら、痛快な感じを覚えます。

今、私たちは、それぞれの家庭に、それぞれの会社に、それぞれの学校に、地域に、社会に、国に、皆と離ればなれになり、散り散りになって、一人で置かれているわけではありません。主イエスさまご自身の約束；「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」(マタイ 28:20)に基づいて、聖霊による力と励まし、慰めとを受けて、見えない公同の教会の交わりの中で、今、ここに遣わされているのです。

ですから私たちも、決して私たちの存在の小ささや弱さ、力のなさのゆえに意気消沈することなく、むしろ散らされてこそその主の証人であるともえる思い・信仰をもって、この時代にまっすぐに生きていく者でありましょう。